

Check

8-2. その他の取組結果と評価

1) 環境上の緊急事態対応訓練

緊急事態、訓練の内容: 対応訓練(EA-4491附属書-6の検証)「ガス漏れ」発生時の対応手順の確認。

実施場所、日時: 技術棟北側 LPガスボンベ置き場、2021年5月19日 13:10~13:30

対応手順、実施要領: 定期巡回監視中に、ガス漏れの異臭に気付いた場面を想定。

- ①定期巡回監視中に、ガス漏れの異臭を確認した。
- ②発見者は設備管理者又は管理部署上司へ連絡する。
- ③応急処置をする。
 - 1. ガスボンベ元(出口)バルブを閉める
 - 2. 状況確認・把握
 - 3. 使用中機器の停止連絡
 - 4. ガスボンベ元(出口)バルブを閉める(酸欠など危険がない場合に限る)
 - 5. ガスボンベ又は漏れ箇所周囲の立ち入り禁止処置
 - 6. 漏れ箇所が屋内の場合は強制換気を実施(扇風機など使用);手順のみ確認
 - 7. 漏れたガスによる人体への影響がなくなったことを確認(酸素濃度計など使用)後、漏れ箇所詳細確認実施
- ④応急処置完了の報告(手順のみ確認:設備管理者→管理部署上司→EA21事務局へ報告)。
- ⑤訓練・処置完了後、参加者にて対応手順・道具など妥当性を確認する。
- ⑥事務局にて報告書にまとめる。

訓練実施後の反省(対応手順、道具など改善案):

- ①酸素濃度計及び立ち入り禁止看板は開発部で所有しているか?
開発部に立ち入り禁止看板を所有していることを確認した。酸素濃度計は自部署にはないが社内にあることは把握している。管理者及び管理場所を部内で情報共有すること。SD試験室のガスボンベも同様の手順で処置することを周知する。→ 開発部部会で訓練内容の情報共有をした。
- ②ガス会社への連絡及び社内への周知は発見部署で行うのか?
総務からガス会社へ連絡し、漏れ箇所の特定及び補修を依頼する。併せて全社への周知(付近へ立ち入らないこと、使用不能機器の連絡)を行う。→ 下記の改定文書を全社に通達した
- ③応急処置手順の確認;漏れ箇所詳細確認をするようになっているが、発見者が行うのか?
発見者(素人)が行うことは危険であるので、ガス会社に依頼する。手順書の見直しが必要。
→ 附属書-6:ガス漏れ対応手順を見直し、緊急事態訓練報告書の指摘による改定および 追記を行った。

	①定期巡回監視中に、ガス漏れの異臭を確認した
	②発見者は設備管理者又は管理部署上司へ連絡する
	③応急処置をする -1.ガスボンベ元(出口)バルブを閉める
	-5.ガスボンベ又は漏れ箇所周囲の立ち入り禁止処置

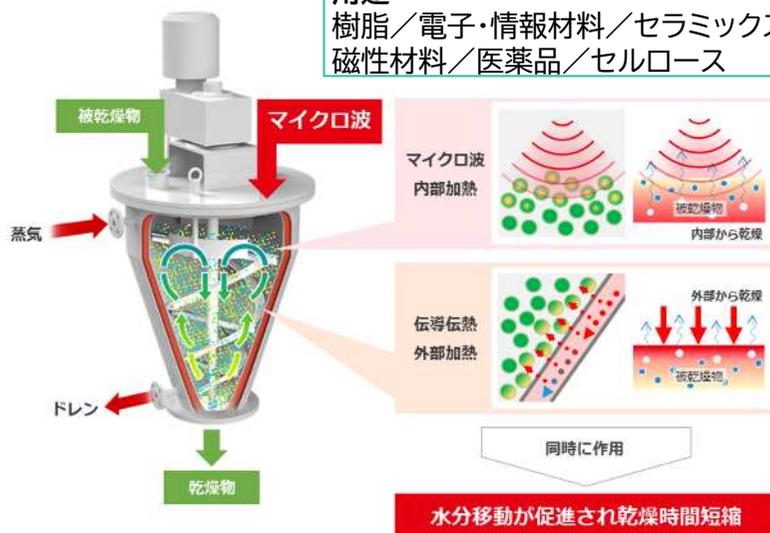
Check

2) - 1オーカワラSDGs貢献商品の紹介 マイクロ波を利用するリボコーン(RM)



リボコーンの優れた混合・乾燥性能にマイクロ波技術を組み合わせました。リボコーンの真空伝導伝熱・攪拌作用による均一乾燥と、マイクロ波による内部加熱が同時に作用し乾燥時間を大幅に短縮させます。
(本装置は山本ビニター株式会社との共同開発品です)

用途
樹脂／電子・情報材料／セラミックス／
磁性材料／医薬品／セルロース



特長

- > マイクロ波 + 真空伝導伝熱で乾燥時間の大幅短縮を実現
- > リボコーンの循環流による均一な混合がマイクロ波の局所加熱や加熱ムラを抑制
- > 乾燥時間の短縮により熱劣化を最小限に抑える
- > 内部加熱の効果により乾燥による収縮を低減、ポラスな乾燥品を得られる
- > 塊状や凝集体になりやすい材料を内部加熱によりほぐし、粉粒体の乾燥品を得られる

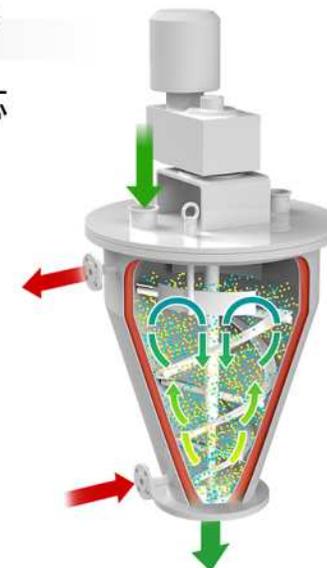
2) - 2オーカワラSDGs貢献商品の紹介 350℃加熱リボコーン(RM)



電子・電池業界を中心に従来より高い温度帯(300~350℃)で間接加熱ができる円錐型リボン混合/乾燥装置「リボコーン」の試験機を導入しました。高温での乾燥はもとより熱処理をご要望されるお客様にお応えするため、新たに350℃(MAX.)までの間接加熱ができるようになりました。

350℃加熱リボコーン

熱媒油温度350℃ (MAX.) に対応
高温処理が可能になりました



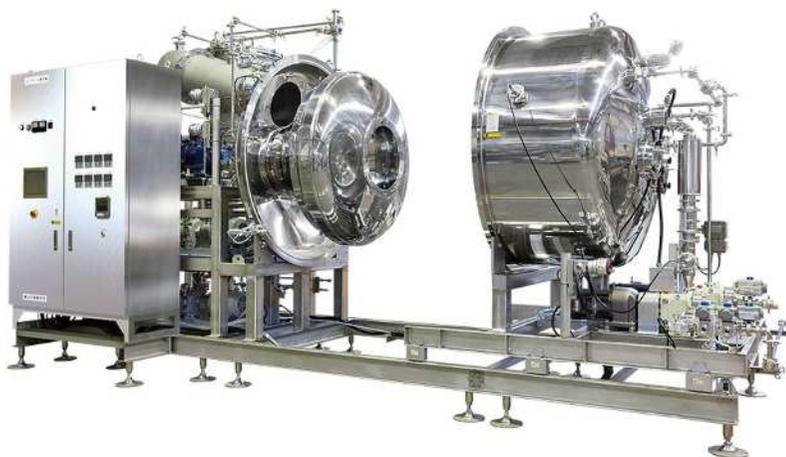
通常、リボコーンにおける加熱処理はジャケットに温水または蒸気を導入して行うものが主流ですが、マイクロ波や熱媒油を利用することで格段に適用範囲が広がり、CO₂削減にもつながります。

Check

2) - 3オーカワラSDGs貢献商品の紹介 エバポール(CEP)



遠心式薄膜真空蒸発装置エバポールは、真空槽内に設置された横型ロータと、真空機器で構成されたユニークな機構の蒸発・濃縮装置です。これまで処理が困難とされていた領域まで適応範囲を大幅に拡大しました。熱変性を受けやすい被処理物に対し低温で短時間に濃縮・蒸発操作することができます。



特長

- > 低温、短時間で濃縮
- > 遠心力による発泡抑制効果
- > 高粘度、高濃度の濃縮液が得られる
- > 洗浄が容易(CIP)殺菌が可能(SIP)
- > 総括伝熱係数が大きい
- > 操作中に蒸発面の状況を観察できる
- > 装置がコンパクト
- > 納入後、即時運転でき、工事費が少ない

用途

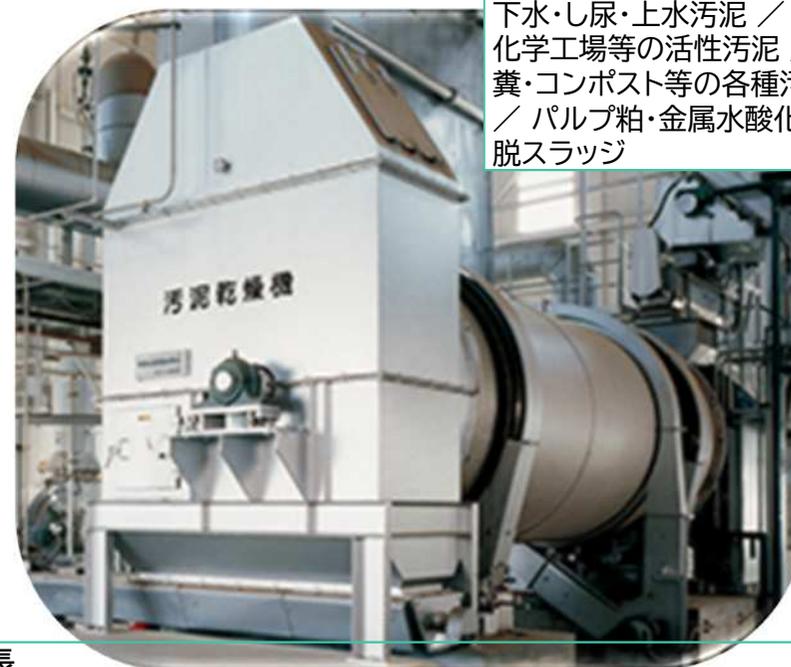
抗生物質／漢方薬／
ビタミン類製品／天
然抽出物／機能性食
品／発酵液／ファイ
ンケミカル／ポリマ

2) - 4オーカワラSDGs貢献商品の紹介 スラッジ・ドライヤー(RH)

スラッジ・ドライヤーは、し尿、下水・上水汚泥をはじめ、あらゆる産業から発生する汚泥(活性汚泥・凝集沈殿汚泥、等)を粒状乾燥する装置です。

用途

下水・し尿・上水汚泥 / 食品・
化学工場等の活性汚泥 / 畜
糞・コンポスト等の各種汚泥
/ パルプ粕・金属水酸化物・排
脱スラッジ



特長

- > 製品粒径が均一
- > 低酸素雰囲気乾燥するので酸化による品質劣化が少ない
- > 熱容量係数が極めて大きい
- > 熱効率が高く経済的
- > 排ガス量が少ない
- > 保守・点検・運転操作が容易
- > 自動運転が可能

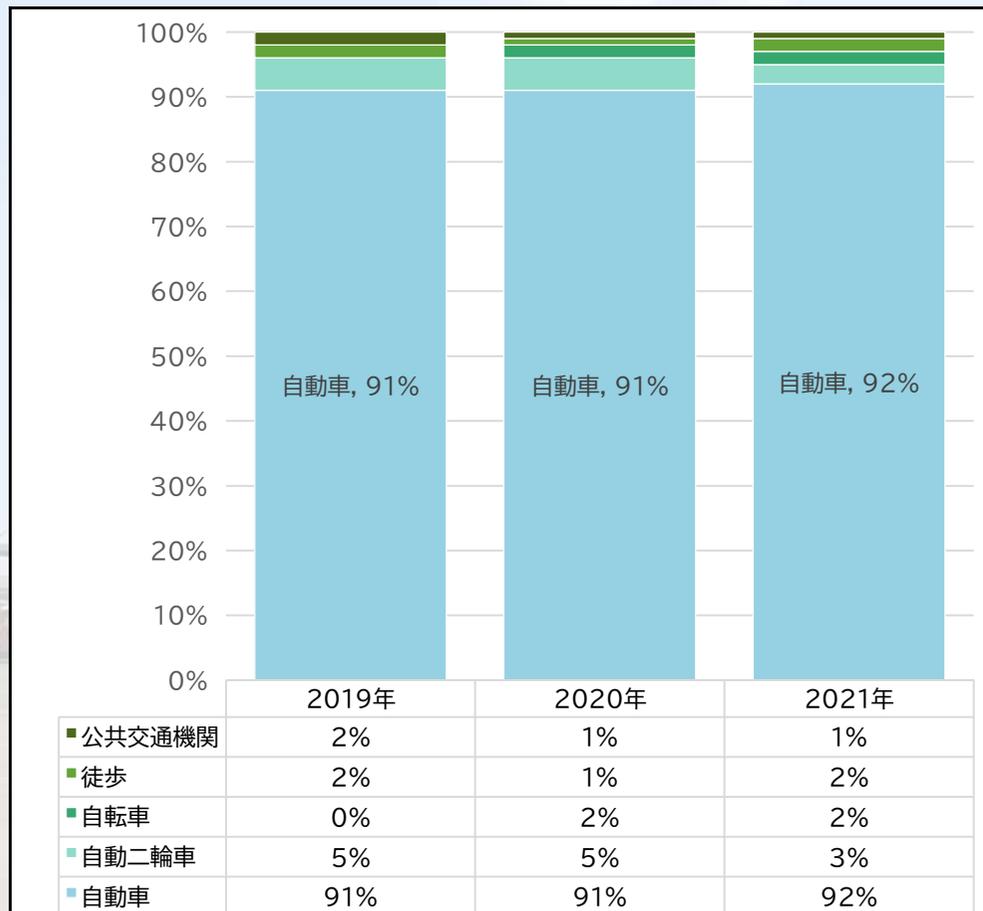


Check

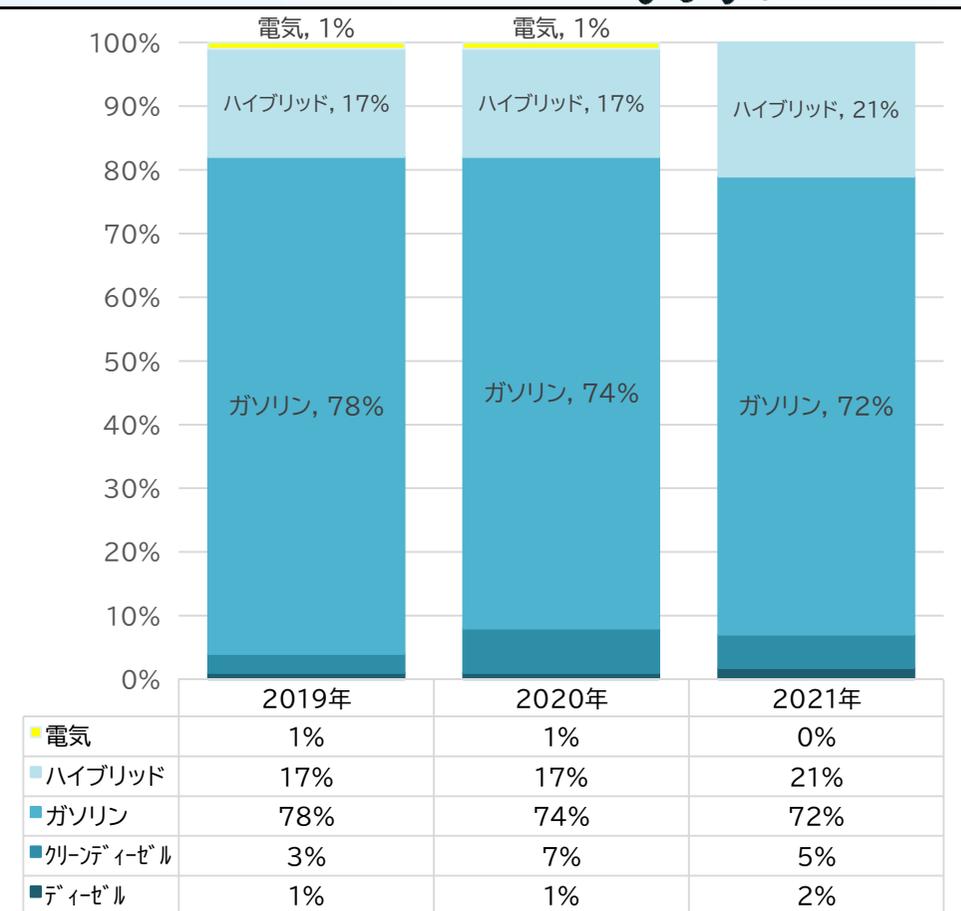
3) 本社勤務社員の通勤事情調査(3回目)

Q1. 主な通勤手段はなんですか？(公共交通機関、徒歩、自転車、二輪車、自家用車)

Q2. 自動車の燃料種は？:ディーゼル、クリーンディーゼル、ガソリン、ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気、水素



回答率は52%で前回より-13ptと少々低かったのですが、結果は3年間変わらず、自家用車がダントツで多い結果となりました。自動車がないと不便な生活圏なので致し方ない結果かもしれません。



3年間でハイブリッド車の割合が増えてます。ガソリン価格が高騰している影響もあるかもしれませんが、このアンケートにより社員の意識が少しでもエコな方向に傾いていれば幸いです。

Check

8-3. 次年度の目標及び計画

1. 二酸化炭素排出量
687,014kg-CO₂

※1※2

電力使用量 ※2
966,476kWh

- ①クールビズ・ウォームビズで冷暖房電力を節電する
- ②不用時、不要場所の照明を消灯する
- ③事務所の蛍光灯を作業に支障のない範囲で取り外し、節電する
- ④機械更新時・増設時、高効率品を選定する
- ⑤事務所蛍光灯を順次LEDに変更する

ガソリン使用料 ※2
40,504L
軽油使用量
13,858L

- ①「急発進・急停止・急加速・急減速」4急操作をしない
- ②「暖機運転」をしない
フォークリフトなどの暖機は必要最低限とする
- ③公共交通機関の利用により、社有車使用削減に努める
- ④社有車更新時にハイブリッド車又は低燃費車を採用する

灯油使用量 ※2
49,687L

- ①営業試験において、灯油ボイラを適切に管理し、運転時間を短縮する
- ②工場内ストーブの適正使用を徹底し、ウォームビズを推進

LPガス使用量 ※2,※3
6,288kg

- ①給湯室の瞬間湯沸し器の火種は使用后、消化する
- ②ガスバーナ・コンロなど、火力の適正調整で無駄を減らす

炭酸ガス使用量 ※2
2,766kg

- ①溶接用(半自動溶接機)と冷やし嵌め用で使用している炭酸ガスを必要最低限とする

Check

2.廃棄物排出量
124.5ton

※4

- ①紙ゴミ・雑誌は分別することにより可燃ゴミを減らし、徹底的に再資源化とする
- ②廃油・金属の分別を徹底し、再資源化する
- ③購入機器カタログや取扱説明書類は電子情報で入手し、紙冊子は必要最小限とする
- ④段ボール・木枠類の再資源化・再利用を促進する
- ⑤パレット類は原則、返却する
- ⑥使用済み充電式電池の回収、リサイクル

3.水使用量
14,323m³

- ①工場内、営業試験における節水の啓蒙

4.化学物質使用量
1,060kg
(PRTR対象物質:トルエン)

- ①シンナーなど(トルエン)の使用量を削減する
特に製品・部品の洗浄用シンナー使用量を減らす

5.当社製品でのCO₂削減、
省エネ取組み
3案件追加

- ①新規設備に関し装置設計の際、省エネを推進し、顧客に提供する
- ②設備の点検・改修時は省エネを検討、顧客へ提案する

※1 購入電力・排出係数は2019年(令和1年)度実績調整後排出係数を使用
(中部電力0.426kg-CO₂/kWh、東京電力0.442kg-CO₂/kWh、関西電力0.318kg-CO₂/kWh)

※2 二酸化炭素排出量の中期目標は全体で設定し、個別の設定は単年度目標のみとする

※3 使用量を気体(m³)で把握しているため、「1m³=2.07kg」として換算して表記する

※4 廃棄物排出量は、一般廃棄物及び産業廃棄物を指す

Check

No.	法規、条例(略称)	規制事項など
1	公害防止組織法	公害防止組織の整備
2	大気汚染防止法	煙突 ばい煙
3	水質汚濁防止法	pH 重金属類
4	浄化槽法	法定検査
		水質検査
5	土壌汚染対策法	重金属類・シアン化合物・油分等
6	騒音規制法	送風機 コンプレッサ
7	振動規制法	プレス機など
8	工業用水法 静岡県地下水の採取に関する 条例	井戸水 地下水採取

No.	法規、条例(略称)	規制事項など
9	悪臭防止法	試験設備など
10	化管法(PRTR制度)	トルエン 塩化第二鉄
11	毒物及び劇物取締法	毒物:22.弗化水素 劇物:54.水酸化ナトリウム、89.硫酸
12	消防法 (危険物)	屋外タンク貯蔵所 屋内貯蔵所
		圧縮アセチレンガス 液化石油ガス
13	廃棄物処理法	廃プラ、廃油、汚泥など
	静岡県 産業廃棄物の適正な処理に関する 条例	産業廃棄物
	吉田町 廃棄物の処理及び清掃に関する 条例	一般廃棄物

Check

No.	法規、条例(略称)	規制事項など
14	工場立地法	—
15	フロン排出抑制法	試験設備:チラーユニット
		業務用エアコン
		大型冷蔵庫
16	労働安全衛生法	工場各所の有機溶剤、粉塵、特化物等の測定
17	ボイラー及び圧力容器安全規則	蒸気ボイラー
		蒸気ボイラー 温水ボイラー

9-1.環境関連法規などの遵守状況及び評価の結果

9-2.違反、訴訟などの有無

- ・各事項の法遵守状況を確認しました。
- ・環境関連法規に関する違反は有りませんでした。
- ・関連機関の指摘や苦情、訴訟はありませんでした。
- ・地域からの苦情は1件ありましたが、対応済みです。
詳細は、8-1-9)に記載してあります。

確認者:環境管理責任者 紅林 勝
確認日:2022年2月1日